

1. 件名：OECD/NEA スタズビック被覆管健全性プロジェクトに関する意見交換

2. 日時：令和4年8月31日（水）10:00～12:00

3. 場所：web 会議

4. 出席者：

原子力規制庁長官官房技術基盤グループ システム安全研究部門

北野上席技術研究調査官

福田技術研究調査官

山内技術研究調査官

電力中央研究所：7名

日本原子力研究開発機構：1名

三菱原子燃料株式会社：1名

原子燃料工業株式会社：1名

日本核燃料開発株式会社：1名

5. 要旨：

スタズビック被覆管健全性プロジェクトは、経済協力開発機構原子力機関の下で実施されている国際共同研究プロジェクトであり、現在進行中の第四期計画（2019年～2024年、以下「SCIP-4」という。）では、使用済燃料を用いた試験を通じて、乾式貯蔵時の燃料被覆管挙動、冷却材喪失事故時の燃料ペレット微細化挙動等について技術的知見を拡充することを目的としている。本プロジェクトの内容は、原子力規制庁が実施する安全研究に深く関連することから、原子力規制庁はこれに参加している。国内からは、原子力規制庁の他に、国立研究開発法人日本原子力研究開発機構、一般財団法人電力中央研究所、三菱原子燃料株式会社、原子燃料工業株式会社及び日本核燃料開発株式会社が参加している。

今般の面談では、これまでの SCIP-4 の進捗、プロジェクト中で提案された追加試験の条件等について、国内参加機関で意見交換を行った。現在の進捗は概ね計画通りであること、提案されている追加試験の実施について問題がないことを確認した。また、非 UO_2 燃料を対象とした冷却材喪失事故を模擬した加熱試験について、利用可能な供試材の情報を交換した。

6. その他：

なし